

2011年
12月8日
木曜日

人生の船遊び

巖 廷美 准教授（社会言語学）

今日は5年前から世界中を旅している私の友人の話をしようと思います。およそ三ヶ月間のインド旅行を終え、次の旅行先のエジプト、カイロ行き飛行機に乗るために空港に行った時の話です。購入していた航空券が旅行会社からキャンセルされており、搭乗を拒否されたそうです。航空券を販売した旅行会社が航空券を売った直後に予約を取り消す詐欺に遭ってしまったのです。滞在ビザも数日で期限が切れるので、インドをすぐ出なければならぬ状況の中でこのような経験をしますと私たちは非常に困惑し、これまでの楽しかった旅の思い出も悪くなってしまいかも知れません。私だったら、おそらく騙した相手と騙された自分に対して耐え切れぬ怒りを覚えるだろうと思います。しかし、私の友人は怒るところか、起きた状況を肯定

的に受け入れ、ビザが切れるまでの二日間市内観光を楽しんだそうです。結局、現地の別の旅行会社の助けを得て、騙された航空券代金を返金してもらい、別の航空券で無事にエジプトに飛ぶことができたそうです。私の友人曰く、予定より二日間日程が遅くなったほかには何も悪いことはなかったと言います。私たちが生きる上で何も起きないことを願うことは賢明なことではないのです。予期せぬことが起きた時でも起きたことを肯定的に受け入れ、それをよい思い出に替えていくことが大事だろうと思います。生きることが船遊びに例えて考えてみましょう。船遊びに海に出てみると予想と違って海は非常に波が荒く、船が沈没しそうになりました。この時、多くの人は海に溺れるのではないかという恐怖心で大騒ぎになるでしょ

う。しかし、もう少し賢明な人は波のない防波堤の中で船遊びを楽しみ、船遊びの危険を避けると思います。このような人は人生において何の危険性も心配もないのですが、自分の中に閉じこもって生きるような人です。次の人は、船遊びの要領をよく勉強し荒波の中でもそれを利用して楽しく船遊びをする人です。波のない時には穏やかな海を悠々と楽しみます。この人には波がある方がなかるうがそれに合わせて楽しく船遊びができる人です。ある種人生の達人ですね。しかし、この人にも一つ問題点があります。波の有無に関係なく船遊びを楽しめる人ではありませんが、それはあくまでも船が転覆し自分が海に溺れることがないという前提の上です。船の操作が上手なので、そういう不幸は起きえないと思っ

ているので、船が転覆するような事故が起きると海の中に溺れてパニックになるような人です。最後の人は、船遊びをする際に、荒波の有無をまったく気にせずに船遊びを楽しむ人で、波のない日はその穏やかさを楽しみ、波が荒くなるとその波を楽しみ、船が転覆し海の中に落ちても溺れることを恐れませんが、この人には海に溺れてはいけないという考えがないので、海に落ちたついでに貝を拾ったり魚を捕ったりして、海の中でも楽しみを作り出すことができる人なのです。つまり、この人にとってはどんな状況も出来事も楽しさに満ちた幸せの過程なのです。私はこのような人こそ人生の賢人だと思うのですが、みなさんはいかがでしょう。みなさんはどのような人生の船遊びをしているのでしょうか。